

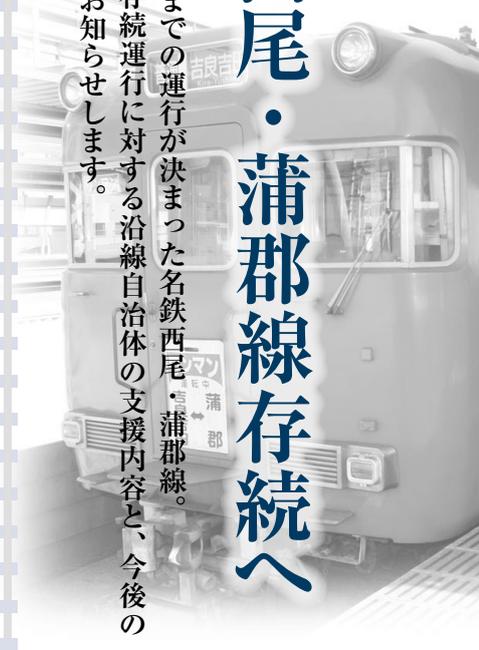
名鉄西尾・蒲郡線存続へ

平成24年度までの運行が決まった名鉄西尾・蒲郡線。今号では、存続運行に対する沿線自治体の支援内容と、今後の活動についてお知らせします。

名鉄西尾・蒲郡線へ支援

名鉄西尾・蒲郡線は、明治末期から昭和初期にかけて開通し、以来、地域の足として三河地方南部の発展を支えてきました。

しかし、自動車の普及などにより、名古屋鉄道株式会社のこの路線の運営は、大変厳しい状況を迎えたため、平成17年12月に名古屋鉄道株式会社と沿線の蒲郡市、西尾市、吉良町、幡豆町の2市2町で「名鉄西尾・蒲郡線対策協議会」を設立し、これまでに9回協議の場を設けました。そして、平成23年3月の対策協議会では、次の2点が承認されました。



沿線地域の思いをひとつに

蒲郡市では、「市民まるごと赤い電車(名鉄西尾・蒲郡線)応援団」が立ち上がり、赤い電車で行く！クリーンウォーク、赤い電車写真コンクール、名鉄西尾・蒲郡線沿線6中学校女子バレーボール部合同練習会など蒲郡市だけでなく、沿線市町にも呼びかける活動が始まりました。



沿線6中学校女子バレーボール部合同練習会で優勝カップを手渡す応援団長

吉良町では、「名鉄電車利用促進懇談会」が発足。幡豆町は、NPO法人幡豆・三河湾ねつとが毎年「友引市」を開き名鉄利用促進と幡豆町地域資源をPRしています。また、西尾市では西尾高校の生徒が中心となって、愛知こどもの国駅から西尾駅までの約20kmを

歩く体感ウォークを開催し、名鉄存続を訴えました。ゴールの西尾駅前広場では、沿線市町の地域団体代表が名鉄存続を力強く訴えかけました。このように、沿線地域住民が同じ目標を掲げ、今まで取り組んできた利用促進活動を広域で実施する取り組みも始まっています。

沿線地域総ぐるみで支援

こうした地域住民の声をしっかりと反映させ、さらに地域資源を最大限活用した広域的な利用促進に取り組んでいくために、商工会議所、観光協会などの経済界、近隣市などとの連携を図り、地域が一体となって名鉄西尾・蒲郡線の利用を促進する必要があります。今後、行政、地域住民、経済界、名鉄など、総ぐるみで名鉄西尾・蒲郡線の存続に向け活動していきます。

皆さんが1回でも多く、赤い電車に乗っていただくこと、また、沿線地域以外の方が赤い電車に乗って訪れたくなる魅力ある地域づくりが必要です。

企画広報課

☎66・1162

